

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成27年3月12日(2015.3.12)

【公開番号】特開2013-158913(P2013-158913A)

【公開日】平成25年8月19日(2013.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2013-044

【出願番号】特願2012-19611(P2012-19611)

【国際特許分類】

B 4 1 J 15/04 (2006.01)

B 4 1 J 11/42 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 15/04

B 4 1 J 11/42 M

【手続補正書】

【提出日】平成27年1月22日(2015.1.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0051

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0051】

可動ホルダー144は、上壁部上面および下壁部下面に形成され、各ガイド溝151に係合する上下一対のガイドリブ163と、テープ送り方向上流側の内側面および下流側の内側面の上下方向略中間部において前後方向に延在し、回転体スライダー106のスライドをガイドする一対のスライドガイド164と、固定ホルダー143のガイドブロック153に対向し、後述する戻しばね(図示省略)の一端が接触するばね受け部(図示省略)と、ばね受け部から駆動ローラー部101とは反対側(前側)に突設され、固定ホルダー143のガイド孔152に貫通するスライドロッド166と、スライドロッド166の上方においてテープ送り方向上流側の側面と下流側の側面とを接続するように形成された水平部167と、水平部167の駆動ローラー部101とは反対側の端部上面に突設され、フック部材175が係合するホルダー係合受け部168とを備えている。また、スライドロッド166の先端には、スライドロッド166のガイド孔152からの抜け止めとして機能する抜け止めピン169が螺合するようになっている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0058

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0058】

このように、開閉蓋6の開放に連動して排出従動ローラー141が離間位置へ移動し、排出駆動ローラー111と排出従動ローラー141との間隙が広くなる。このため、テープカートリッジCをカートリッジ装着部10にセットする際、印刷テープTがテープ送出口38からはみ出しているような場合にも、印刷テープTを排出駆動ローラー111と排出従動ローラー141との間に確実に入るようにしてテープカートリッジCをセットすることができる。そして、テープカートリッジCをカートリッジ装着部10にセットした後は、開閉蓋6を閉塞することによって、それに連動して排出従動ローラー141がニップ位置に移動するため、排出駆動ローラー111および排出従動ローラー141により印刷テープTを回転送り可能な状態とすることができます。

なお、後述する回転部材 192 についても、排出_{従動}ローラー 141 と共に可動ホルダ-144 に支持されているため、離接機構 108 により、開閉蓋 6 の開閉に連動して往復移動するようになっている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

回転部材 192 は、係合アーム 195 が回転体スライダー 106 の係合孔 185 に係合していることで、回転体スライダー 106 の前進位置と後退位置との間のスライドに連動して回転する。回転部材 192 の係合アーム 195 および検出アーム 196 は、回転体スライダー 106 の前進位置と後退位置との間のスライドに連動して軸部 194 (回転部材支軸 191) を中心に往復回動するようになっている。すなわち、軸部 194 は、係合アーム 195 の前後方向の回動を検出アーム 196 の左右方向の回動に変換するが、検出アーム 196 が係合アーム 195 よりも長い分、係合アーム 195 の回動の振り幅に対し検出アーム 196 の回動の振り幅は数倍となる。なお、以下では、回転体スライダー 106 が前進位置から後退位置へスライドする場合の係合アーム 195 および検出アーム 196 の回動方向を_{後退}回動方向といい、回転体スライダー 106 が後退位置から前進位置へスライドする場合の係合アーム 195 および検出アーム 196 の回動方向を_{前進}回動方向という。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0081

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0081】

図 14 を参照して、他の実施形態に係る駆動側回転体 254 および従動側回転体 255 について説明する。駆動側回転体 254 は、駆動側小径部 261 と、駆動側小径部 261 の両端面に駆動側小径部 261 と同軸上に設けられた駆動側第 1 大径部 262 および駆動側第 2 大径部 263 とから一体形成され、全体として、外周面が軸方向において凹凸となる駆動側凹凸部 (図示省略) を有するローラー状に形成されている。駆動側第 1 大径部 262 および駆動側第 2 大径部 263 は、排出駆動ローラー 111 の駆動側上ローラー本体 122 および駆動側下ローラー本体 123 と略同径に形成されており、駆動ローラー軸 121 に軸着された状態では、駆動側上ローラー本体 122 および駆動側下ローラー本体 123 に対して径方向にはみだしてはいない。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0082

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0082】

従動側回転体 255 は、従動側大径部 266 と、従動側大径部 266 の両端面に従動側大径部 266 と同軸上に設けられた従動側第 1 小径部 267 および従動側第 2 小径部 268 とから一体形成され、全体として、外周面が軸方向において凹凸となり且つ駆動側凹凸部と相補的な形状である従動側凹凸部 (図示省略) を有するローラー状に形成されている。従動側大径部 266 は、排出従動ローラー 141 の従動側上ローラー本体 172 および従動側下ローラー本体 173 と略同径に形成されており、回転体スライダー 106 が後退位置に移動した状態では、従動側上ローラー本体 172 および従動側下ローラー本体 173 に対して径方向にはみだしてはいない。

なお、図示省略したが、先の実施形態と同様に、駆動側回転体 254 には駆動側回転体孔部が形成され、従動側回転体 255 には従動側回転体孔部が形成されている。